

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 2 部門第 5 区分

【発行日】平成22年3月4日(2010.3.4)

【公開番号】特開2008-201214(P2008-201214A)

【公開日】平成20年9月4日(2008.9.4)

【年通号数】公開・登録公報2008-035

【出願番号】特願2007-38072(P2007-38072)

【国際特許分類】

B 6 0 R 21/276 (2006.01)

【F I】

B 6 0 R 21/28

【手続補正書】

【提出日】平成22年1月15日(2010.1.15)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 4 3】

この態様においても、蓋部材の固定端、第 1 の掛通部及び第 2 の掛通部を結ぶ線分が、これらを頂点とする略三角形を呈し、且つ開閉型ベントホールは、この三角形の内側に配置されていることが好ましい（請求項 7）。この場合、蓋部材の外形を、この三角形と略合致する形状とすることにより、必要最小限の面積で十分に開閉型ベントホールを覆うことができる蓋部材を構成することが可能である。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 8 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 8 6】

蓋部材 2 0 A は、この実施の形態では、角部 2 4 で交わる 2 辺（符号略）が、それぞれ、該シーム 2 6 の上端と常開型ベントホール 1 5 とを結ぶ線分と、シーム 2 6 の下端と常開型ベントホール 1 5 とを結ぶ線分とに沿って延在した形状を有している。なお、この角部 2 4 で交わる 2 辺は、略同じ長さとなっている。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 8 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 8 8】

この実施の形態では、1 本の繋ぎ部材としてテザー 3 0 A により、エアバッグ 1 0 A の膨張時の乗員対向面 1 0 f 及び下部 1 0 b と、蓋部材 2 0 A の角部 2 4 側とがそれぞれ繋がれている。即ち、この実施の形態では、該テザー 3 0 A は、一端が、エアバッグ 1 0 A 内において、該エアバッグ 1 0 A の乗員対向面 1 0 f にシーム 3 2 により縫着されていると共に、他端が、エアバッグ 1 0 A 内において、該エアバッグ 1 0 A の下部 1 0 b にシーム 3 4 により縫着され、その長手方向の途中部が、前記常開型ベントホール 1 5 からエアバッグ 1 0 A 外に引き出されて、蓋部材 2 0 A の角部 2 4 側の引通部 2 7 に引き通されている。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0102

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0102】

第11図は実施の形態に係るエアバッグの膨張時の側面図、第12図は第11図のXII-XII線に沿う断面図、第13図は第12図のXIII-XIII線に沿う断面図、第14図はこの膨張したエアバッグの乗員対向面に乗員が接触した状態を示す断面図、第15図は第14図のXV-XV線に沿う断面図、第16図はこの膨張したエアバッグの下部にチャイルドシートが接触した状態を示す断面図である。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0124

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0124】

この場合、第16図の通り、エアバッグ10Bの下部10bがチャイルドシート6に押されてエアバッグ10Bの内部側に後退するため、このエアバッグ10Bの下部10bと蓋部材20Bとの間で下側テザー31Bが弛む。そして、この弛みの分、蓋部材20Bが、該下側テザー31Bが連なる辺22の下端側から、エアバッグ10Bの内部のガス圧により開閉型ベントホール11を通してエアバッグ10Bの外部側に押し出される。これにより、開閉型ベントホール11が開となり、この開閉型ベントホール11と各常開型ベントホール14とからそれぞれエアバッグ10B外にガスが流出する。この結果、エアバッグ10B内の圧力が低下する。

【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0127

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0127】

また、蓋部材20Bは、角部21で交わる2辺が、それぞれ、該シーム23の上端と上側掛通部40とを結ぶ線分と、シーム23の下端と下側掛通部41とを結ぶ線分とに沿って延在した形状となっている。即ち、この蓋部材20Bも、辺22の上下両端側が上側テザー30Bと下側テザー31Bとによってそれぞれ引っ張られることにより該蓋部材20Bに生じるテンション領域と略同じ平面視形状を有したものとなっている。

【手続補正 7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0130

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0130】

第17図は別の実施の形態に係るエアバッグの膨張時の側面図、第18図は第17図のXVIII-XVIII線に沿う断面図、第19図は第18図のXIX-XIX線に沿う断面図、第20図はこの膨張したエアバッグの乗員対向面に乗員が接触した状態を示す断面図、第21図は第20図のXXI-XXI線に沿う断面図、第21図はこの膨張したエアバッグの下部にチャイルドシートが接触した状態を示す断面図である。

【手続補正 8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0137

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0137】

また、この実施の形態では、開閉型ベントホール11が設けられたエアバッグ10Cの側面10mのエアバッグ内側面うち、該開閉型ベントホール11を挟んで、エアバッグ10Cの膨張時の乗員対向面10fと反対側であって、且つ蓋部材20Cによって覆われない位置に、テザー30Cが掛け通される1個の掛通部43が設けられている。この実施の形態でも、掛通部43は、略長方形形状の小クロスを該側面10mのエアバッグ内側面に重ね合わせ、その長手方向の両端側をシーム42によって該側面10mに縫着してなるものである。

【手続補正9】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0140

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0140】

即ち、この実施の形態では、該テザー30Cは、第21図に示すように、エアバッグ10Cの内部において、一端が該エアバッグ10Cの乗員対向面10fにシーム32により縫着されていると共に、他端が該エアバッグ10Cの下部10bにシーム34により縫着され、その長手方向の途中部が、蓋部材20Cと反対側から該蓋部材20C側に向って前記掛通部43に掛け通された後、該蓋部材20Cの角部24側の引通部27に引き通されている。

【手続補正10】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図10

【補正方法】変更

【補正の内容】

